

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

## 今年もよろしくお祈いします

厳しい寒さでしたが、さわやかな日差しのもとに2022年が明けました。年明けとともに、オミクロン株を中心とした新型コロナの蔓延の兆しが顕著となり、昨年度同様に不安を抱えたスタートとなりました。そんな中でも、学校では子供たちの元気な声が聞かれ、また明るい顔を見ることができ、ほっとしたところです。

三学期には、卒業式をはじめ「六年生を送る会」や授業参観、校外学習などが計画されていますが、感染状況によりましては、変更や中止という場面も出てくることかと思えます。その時にはなにとぞご理解ください。校内での感染対策を、これまで同様に行うとともに、外部に出ていく行事につきましては、状況をしっかりと見定め、慎重に判断していきたいと考えております。



ご家庭でも引き続き、感染対策をお願いします。あわせて体調の悪い時には躊躇なく休むことや受診すること、電話等にてご連絡をいただくことをお願いいたします。なお、これまで同様に、検査を受けることが決まったり、ご家族の中に陽性者が出たりしたときなどには、できる限り早い段階でご連絡くださるようお願い申し上げます。

## ご心配をおかけしました

三学期開始とともに、本校職員に新型コロナ陽性者が出たため、急遽13日を臨時休業とさせていただき、私を含めて何名かの職員が検査を受けさせていただきました。報道で示されているように、オミクロン株はこれまで以上に感染力が強く、濃厚接触者にはなりません。学校という場を考えより慎重にということで、今回のような処置をとらせていただきました。急なことでしたが、ご対応いただきありがとうございます。

今回の本校職員においても、特別な外出や会食などの機会はありませんでした。このような中、今後も、いつ誰が感染者となるかもしれません。これまで同様に対策を十分にするとともに、万が一の場合には早めの決断、早めの対応を心掛けていきます。

ご心配をおかけしましたが、ご理解とご協力、あわせて励ましのお言葉等をいただき、心より感謝申し上げます。

## 新児童会、もうすぐ開始

児童会選挙を終え、新児童会本部の役員が決まりました。もうすぐ新しい体制のもと、「六年生を送る会」などに向け取組が始まります。やる気満々なメンバーです。

会長 大森詠斗  
副会長 和田桃佳 小松未空 飯田恵理華 小野心  
執行委員 清水颯太



## もっているものを見極め生かす

今から30年ほど前、1991年の秋に青森県を台風が直撃し、収穫直前のりんごの9割が落ちてしまうという大きな被害が出ました。もしかすると若い保護者の皆様には御存じないことかもしれませんが、私たちの年代にはよく記憶に残っているニュースです。

収入面での大きな痛手とともに、丹精込めて育てたりんごのほとんどが落ちてしまったことによる悲しみも大きかったことでしょう。しかし、この状況にあるアイデアが救うことになりました。9割のりんごが台風によって落ちてしまったわけですが、残りの1割のりんごは落ちないで残ったわけです。その落ちないで残った1割のりんごを「落ちないりんご」という名前で、縁起のいいものとして受験生に買ってもらおうというアイデアだったのです。値段は1個1000円くらいだったそうです。普通だったらりんご1個を1000円で買う人は少ないですが、この「落ちないりんご」は飛ぶように売れ、あっという間に完売されたそうです。このアイデアでりんご農家がどれくらい助かったのかよくわかりませんが、落ちたりんごの分を少しは補うことができたのではないかと思います。



この話は、子育てにも生かすことができるのではないかと思います。このアイデアは視点を変える。つまり見る場所や見る方向を変えることで生まれたものです。台風で落ちてしまった9割のりんごを見てがっかりしていたら、思いつかなかったと思います。落ちなかった1割のりんごに目を向けたときに生まれたアイデアです。「ないりんご」ではなく「あるりんご」に目を向けたわけです。

私たちは、ついつい「あればいいのになあ」と思うこと、つまり今はないことに目を向けて、それをうらやましがったり、それがないからダメなんだとあってがっかりしたりしがちです。私も子育てしていた時には、我が子に対してそう思いがちでした。誰々さんのようにスポーツ万能だったらいいのになあとか、誰々さんは勉強できるけどうちの子はそうでもないなあとか、隣の子はリーダーとして活躍しているけれど我が子はそういうことが苦手だなあというように。でも、そうやって我が子にないところ、我が子にできていないところを見ているというのは、台風で落ちてしまっ、もう木にはないないりんごに目を向けているのと同じなんですね。まだ落ちていない、今木にちゃんとあるりんごに目を向けること。すなわち、**我が子がもっているものをよく見極め、それを生かすことが子供を生かすことにつながる**のだと考えます。それが親の大きな役割の一つなのではないでしょうか。よその子にあるけれども自分の子にはないことばかりに目を向けて、それがあればいいのにと親が思っていると、その思いは知らず知らずのうちに子に伝わります。自分はこれができないからダメなんだ、それでお父さんやお母さんががっかりしているんだなどと思わせてしまったら、本当にかわいそうです。反対に、子供がもっているものに目を向け、こんなふうに伸ばしていくといいと伝えていけば、自然に子供は自分の才能を伸ばしていこうと思うことでしょう。才能の大小は関係ありません。子供たちが自己肯定感をもってすくすくと成長していくために、御家庭と学校とが同じ方向を向いて育てていけたらうれしいと思っております。年もあらたまりました。もう私の子育てはやり直しがききませんが、百田小の児童に対して、さあ早速良いところを見つけていきましょう。

